



美濃  
舊衣

八丈綺談

六

特別
^ 13
3646
6







襖を念珠の音小念珠の得脱と庶幾とせしめて物怪逐し消滅せし活約の  
中にも病細つ。かゝる今茲もてや暮れんと同雲寒を黄昏小庵光が門は  
立在り鉢をさへ行僧ありき。小桔梗はその声と伴て遠く門は出けり  
うた人の亡日えん僧宿しゆるなり。おろしうか家小今宵とありしひゆ  
ほ入る。叮嚀は言わけり。當下才三郎の行僧は對面し。その為体を熟  
視する。年ふるやころけは。道顔秀くふるりて。まづその本貫法を我  
同へ行僧答く。貧道の心と喚びて。東國ののち幼穉し。母を喪ひ父は  
別と嫉し養ひて。患難いづとあり。又乃存亡とあり。當國の呻吟  
つ。人の小厮はかりて患難も倍せり。あるを我故ありて。かの子と云ふは  
違ふ。ゆる弾涼より事記す。主の二子命孤隕しぬ。とぞと下りて。我  
殺す。あつと縁をいひて。ゆるれり。小瓶て何より走去て。力と投入し

ある折一個の後驗者。忽然とす。推苗め。早うて可憐命を失ひて。汝が主と  
主と。即父の仇人。とあり。汝が孝心。神明佛陀憐し。ひて。雙乳むらせ  
あひし。そのあり如此と。と縛つ。とらう。小説あり。汝過せし。佛縁あり。出家  
せ。野の人と清夜せん。まづ。少少。し。と。い。ひ。と。あ。く。躰。て。小。服。ふ。ら。抱。ま。て。  
空中。小。肉。れ。冲。了。瞬。の。間。は。名。を。あ。ら。ぬ。深。山。の。あ。く。う。れ。お。ろ。し。う。か。家。小。今。宵。と。あ。り。し。ひ。ゆ  
と。せ。く。名。張。的。心。と。あ。ひ。み。た。こ。と。よ。り。し。く。彼。後。驗。者。貧。道。我。推。乃。て。大。凡。國。の  
天地名山。到らざる所。その間。ある。か。せ。學。向。させ。ま。づ。諸。仏。の。法。受。け。し。ま  
聴衆の末座。に。お。し。ゆ。は。終。り。三。年。あ。り。本地。垂。迹。神。道。の。傳。授。三。乘。三。藏。佛。法。の  
妙。奥。服。膺。ま。す。淵。源。と。極。め。り。如。之。下。と。び。定。入。り。と。せ。ぬ。世。れ。の。過。去。未。來。劫  
前身。後。身。と。あ。る。と。い。ふ。と。能。く。天。機。を。漏。れ。ず。我。許。こ。と。ま。か。り。今。茲。も  
亡父の十七回忌。に。あ。り。て。且。く。力。の。暇。を。と。り。て。人間。より。な。や。と。あ。り。師。の

この中城に居る女が勤行既熟せり。とて下りて水く別るべし。  
えん人思ふ立ちて因と流果我疾し有縁のみの我済度せよ。今その時来  
たるも。とて。いさば。いさば。會止。謹ぐ。けり。且。年比の高恩我謝。  
抑。師。神。授。佛。願。ふ。まじ。と。呻。清。向。師。莞。尔。と。ち。笑。り。  
現。所。く。い。え。と。と。美。濃。の。仲。山。と。る。金。山。彦。大。神。小。使。と。なる。天。夜。後。  
の。南。宮。房。の。口。唇。是。の。曩。は。汝。を。救。ひ。と。その。孝。心。我。憐。む。神。勅。と。受。り。  
ゆ。え。守。義。我。見。系。せ。如。此。と。ま。う。せ。い。で。餞。別。我。さ。び。き。と。て。被。物。と  
あ。つ。と。あ。つ。合。渡。林。る。又。が。墓。の。わ。り。小。亭。の。週。七。日。読。経。と。呻。呻。菩。提。と  
と。ひ。又。は。彼。此。を。券。縁。と。今。の。門。は。食。を。い。は。入。と。て。歎。息。と。ら。ば。乃  
教。と。不。じ。が。人。匿。と。告。と。く。長。物。が。り。小。亭。の。わ。り。と。い。わ。れ。と。小。桔。梗。の  
小。膝。我。ま。も。耳。我。側。才。三。郎。の。怪。談。我。半。信。半。疑。ひ。忽。地。ふ。り。や。う。この。乃

傍に豫てゆり。渚平が男兒柱死せりと死逐電をくる小厮さるを大く。精を  
牽余よめるを向き稲葉山の碑なる。又才他が自殺の。活駒が病著お駒が容  
美まをく。ちりわく。と。告。則。加。持。と。清。ひ。と。的。心。の。め。と。ち。微。笑。因。果。六。柿。の  
核の中小二葉を生さるが如。り。園。圃。の中。小。入。る。と。れ。六。誰。々。と。脱。之。死。但。夜。を  
頭。物。怪。の。真。の。怨。天。の。あ。と。と。流。と。疑。心。暗。鬼。と。生。と。と。い。う。と。ら。り  
招。く。と。あ。つ。通。夜。と。退。治。と。い。ふ。と。加。持。後。法。我。ま。と。と。く。真。偽。と。立  
地。と。と。と。と。二。更。の。讀。書。の。小。桔。梗。の。客。房。は。外。曾。城。儲。と。  
的。心。と。睡。と。せ。その。方。の。活。駒。が。枕。方。は。あり。と。看。病。と。と。る。ね。才。三。郎。へ。活。駒。  
病。牀。を。鄰。と。る。便。室。は。い。し。と。う。と。と。讀。書。の。鞋。と。扱。ゆ。と。く。壁。止。る。壁。に。掛。け。孤  
燈。の。下。小。輪。思。我。ん。と。と。の。死。の。と。と。流。書。は。あ。と。と。更。圍。て。鬼。の。出。る。我  
遅。と。俟。と。る。不。煩。復。家。と。る。岐。路。と。と。と。と。お。駒。と。救。へ。て。既。と。わ。わ。と

遂に女房滝水を社方と密通せし世業を小著で只虚しく日紙送り  
御の荘客們被さるの事なき情なきもの事なきと母親同此か  
面りぬと紙外など時を師の下旬なりて一夕同此ホク  
莊客們俟つべく某甲が宿所へび入る。海水なる岐義が  
秘の外面猛と恩劇く大山の敵推しせす。鄰村を放火と罵る  
えく。人金東西へ逃しへ。衆皆こころは驚き資材雜具を  
慌忙つ。宿へゆく。群が人へ誘引く。往方を定め走り  
この岐義を誰いとも母親同此かかろぬ。度は留り  
しよ。はほとよれ件の騒動起り。母親同此かかろぬ。度は留り  
んと。お駒が狐被き背門口より。西へ投て走る。お駒が才  
る。牧助の袷衣只ひら被る。帯と楚と結びぬ。黒白の  
甲夜圍ふ喘を走り。この騒劇の後。大山の軍兵よせ  
ぬ。と。彼此の山賊ホかのどく流言く。里人共劫。こ  
集ひ妍き女の子と掠めんと計り。山賊ホかのどく流言く。里  
只筆の皮紙とら。このおは岐義の途より。くの患難を又  
つ。お駒が疲勞ると。三時が同小六七里を。お駒が才  
走り。五日の月とや。お駒が才。この時一個の小賊松明  
過ると。お駒が才。この時一個の小賊松明  
透菟牙。眼を。お駒が才。この時一個の小賊松明  
防。お駒が才。この時一個の小賊松明  
と。お駒が才。この時一個の小賊松明  
遂に。お駒が才。この時一個の小賊松明

入て奇談五

廿三







音小入を... 岐花... 大罪... 真夜中... 月小送... 養父の宿所障子... 罪科を辱も忘... 襖の綴衣模様... 首途か... 一遍の回向... 才三郎... 塚の岐花... 簞の刺... 燭城揚... 下流... 漁水... 俄頃... 義が倒... 今般の言...

六の言...

六の言...

身之責を心探しを痛く。正徳方こそ定まらぬ後、赤い海の水といふ。
 あり。親方の愛女の必死を救ふハト云ふことも、赤い身はの妹、伎の相、禪、良人と
 いふハ、物体は、許し、身と亡骸は、推して、著つ、泣、沈め、岐、菘、ハ、と、面、目、を、て
 頭を低くするわたり。折し、その、白木屋、楮、平、の、楳、の、棒、を、杖、と、つ、樹、立、の、蔭、に、り
 頭を正し、身を正し、尾花、才、三、郎、が、故、主、の、一、角、の、の、汝、が、又、又、周、智、せ、く、女、見
 ち、助、ハ、汝、ハ、殺、さ、る、也、あ、る、べ、し、と、い、ひ、し、り、後、を、夜、を、く、ち、助、が、鬼、鬼、の、こ、こ、を、と
 世の風声、幻のり、と、女、見、が、面、目、を、正、す、と、十、日、の、あ、り、夜、沈、む、の、毎、に
 潜、び、へ、り、今、又、お、駈、が、ま、ま、と、の、在、死、果、る、怒、を、観、念、せ、よ、と、敦、園、猛、く、罵、れ、り
 才、三、郎、ハ、や、む、の、あ、へ、む、の、め、く、し、と、刀、を、把、り、立、向、人、と、ま、る、如、し、甲、夜、は、宿、屋、に
 行、信、的、心、忽、然、と、立、出、く、度、内、の、と、念、珠、を、ひ、て、勢、ひ、俾、く、ち、揚、り、る、諸、平、が
 棒、を、打、落、せ、ば、数、も、た、る、が、信、と、言、く、や、と、と、裸、松、汝、ハ、死、る、ぞ、在、ら、ん、諸、平、太

部が仇を討つ、仇人彼も此を脱し、と罵り、ね、ひ、く、落、し、る、棒、を、取、り、入、と、ま、り、と、い、ふ
 と、足、動、く、と、い、ふ、い、ふ、と、緋、の、目、前、へ、再、び、数、珠、を、内、へ、く、し、と、磯、と、醫、居、は、打
 居、え、入、ハ、ま、り、と、い、ふ、と、和、主、が、兩、個、の、子、を、殺、す、と、和、主、が、公、の、劍、を、り、十、七、年
 さ、ら、つ、比、和、主、合、波、の、其、生、ゆ、く、と、い、ふ、又、裸、女、を、殺、す、と、い、ふ、と、因、果、の、そ、と、あ、は、さ
 その子とま、り、つ、利、乃、為、す、と、い、ふ、と、孤、女、は、侍、バ、と、い、ふ、と、ま、り、と、ま、り、と、掛、り、る、鬘、小、僧、が
 子、の、合、波、終、り、と、い、ふ、と、人、カ、人、智、の、及、ぶ、は、お、と、ま、り、と、天、の、冥、罰、昭、と、い、ふ、と、ま、り、と、善、報
 あり、の、と、い、ふ、と、岐、菘、が、又、復、市、に、罪、を、り、て、獄、屋、に、入、り、ま、り、と、大、八、が、兄、株、菘、も
 お、ろ、ろ、ま、り、と、命、を、預、け、り、と、和、主、が、西、の、より、配、と、ハ、輪、回、を、報、脱、と、い、ふ
 和、主、へ、と、い、ふ、の、後、妻、を、り、と、女、見、と、若、く、を、株、菘、が、才、文、ハ、又、流、欺、と、い、ふ
 彼、が、死、後、ま、り、と、その、奸、淫、を、懐、く、と、刺、お、駈、を、復、市、が、一、子、は、菘、小、太、集、れ、と、云
 号、で、菘、太、花、生、を、殺、さ、り、と、今、生、の、業、因、の、と、遠、く、前、身、を、お、ろ、ろ

當初昔月角六が因果塚の鬼を祈り。被一角を奉ふ起り。牧村傳は...

棟く。柏芒寺の再興と。とあり。小事を。とあり。ふり。とあり。塚の鬼時...

生と攀木破乃。郡司が。後家谷折。の。口村の。父を。とり。まぬ。谷折の。二字...

引く。と。則。才口の。父。と。あり。相芒寺の。悪僧。午句坊。の。婿。平が。女兒...

駒。と。あり。ぬ。午。と。馬。の。和。判。の。は。午。句。の。二。字。は。合。と。も。則。こ。駒。と。あり。

独。孝。子。木。三。郎。は。三。郎。は。生。を。攀。り。と。あり。と。あり。と。あり。木。二。郎。の。母。と。継。父。と...

練。子。偷。見。は。打。扮。と。あり。と。あり。親。は。捕。ら。せ。午。句。坊。が。邪。怪。乃。刃。右。の...

腕。を。落。と。し。その。形。孤。家。と。あり。木。の。字。は。右。打。落。と。二。郎。の。上。は...

冠。と。あり。才。三。郎。と。あり。ふ。あり。と。あり。故。は。午。句。坊。の。白。木。屋。を。駒。の...

才。三。郎。或。暮。と。あり。と。あり。と。あり。と。あり。と。あり。且。と。患。苦。終。む。小...

断。岐。菴。は。犯。と。あり。と。あり。夫。と。害。せ。と。あり。と。あり。名。生。と。あり。木。二。郎。と。あり。才。三...

郎。は。勢。し。下。亦。是。前。世。の。悪。業。と。あり。と。あり。念。と。疑。と。謹。で。聴。ゆ。め。せ。よ。

む。柏。芒。寺。は。支。山。林。中。と。あり。西。個。の。沙。弥。あり。林。中。に。住。持。午。句。坊。が...

悪。狐。翼。支。山。の。志。と。あり。練。と。あり。午。句。坊。は。練。と。あり。竊。は。林。中。に。相。譚...

つ。支。山。の。酒。は。酔。と。あり。睡。の。中。に。縊。殺。と。あり。機。密。孤。漏。と。あり。と。あり。と。あり。

又。林。中。を。殺。と。あり。と。あり。林。中。且。戦。と。あり。午。句。坊。は。後。獲。と。あり。と。あり。

倒。る。と。あり。と。あり。直。は。逐。電。と。あり。と。あり。後。道。路。は。餓。死。と。あり。今...

この。因。と。縁。と。あり。支。山。の。二。字。は。岐。菴。と。あり。午。句。坊。の。お。駒。を。犯。して...

女。房。燗。水。紙。打。罵。り。却。お。駒。は。額。破。と。あり。と。あり。倒。さ。と。あり。お。駒。は。と。あり。と。あり。

死。せ。り。と。あり。支。殺。の。罪。人。と。名。を。り。ぬ。と。あり。林。中。の。一。の。水。中。に。と。あり。と。あり。

沖。水。支。山。の。岐。菴。と。あり。午。句。坊。の。お。駒。が。死。に。狂。死。と。あり。前。身。支。山。を。殺。し...

師。の。悪。僧。は。傷。け。る。罪。悪。と。あり。と。あり。と。あり。同。業。を。拾。ひ。金。石。を...

師の悪僧は傷けらる。罪悪と。とあり。とあり。同業を拾ひ。金石を...



因を推  
果と説  
大團圓

よゝろ

目黒村長



小まご

おご



的心

猪平

才三郎

大奇談卷五

七九

大奇談卷五

諸平の不正の財。今と云は、彼を復市が冤と憎ふは似て居る。畢、  
 故、其の思義あり。世婦、或は是禍の水原。又この諸平が前身は柏芒寺の僧。  
 其の野上の松君柏の平脚は別、其の恨、宛つて危くありて、伽藍の基、  
 開き、其の愛惜の雲霧、晴きと生を邪慾の諸平が攀り、かく諸平が因果  
 塚なる。縁とゆるくゆりて、一旦富へ入ると、けり、原彼法は柏芒寺の最物、其  
 ひりて、其のつら、柏の一字、分とは、是則、白木、又彼、主官、丈八、前身は妻、各  
 折と、午、句、坊、は、偷、と、する。白、徒、不、破、郡、司、不、破、の、不、の、字、の、右、の、一、へ、冠、と、  
 丈、と、る、ら、八、と、破、の、字、の、声、相、近、し、あ、ひ、み、よ、前、身、は、妻、一、と、ぬ、夫、婦、は、則、好、夫、と、  
 づ、の、淫、婦、と、り、て、因、果、塚、と、て、自、滅、せ、り、こ、の、初、死、あ、る、と、て、就、中、谷、折、は、  
 羅、連、と、云、ひ、又、舊、の、空、へ、屍、と、返、せ、り、差、夫、悲、し、れ、り、又、の、前、身、は、彼、柏  
 乳、は、其、の、意、を、以、て、賺、と、帰、洛、を、多、し、又、復、前、圓、司、の、平、之、今、謀、め、と、ぬ、る、平、の、乳

々、其、薄、金、と、い、ふ、と、又、彼、復、市、と、株、蒔、が、前、身、は、夏、柿、珠、倉、と、る、と、平、脚、の  
 老、堂、之、主、の、平、が、柏、と、京、洛、へ、俱、せ、よ、と、仰、し、其、争、ひ、練、く、苗、や、い、ふ、柏、と、  
 この主後と、殊、又、又、怒、り、と、り、と、い、ふ、と、又、謀、め、が、この、平、脚、來、て、諸、平、を、  
 獵、夫、復、市、株、蒔、の、疑、と、狂、死、せ、り、と、云、件、の、柏、が、賺、さ、し、て、る、前、身、は、怒、り、  
 一、と、い、ふ、と、い、ひ、り、り、と、命、死、と、小、墮、と、り、被、り、平、主、後、は、こ、の、隠、悪、り、と  
 一、と、い、ふ、と、主、の、食、言、と、い、ふ、と、愛、妻、は、其、死、を、臣、に、家、初、は、練、ど、り、て、後、と、其、死  
 阻、と、り、過、失、と、り、て、其、の、と、く、一、婦、人、の、怨、と、り、善、の、必、善、報、あり、悪  
 必、必、惡、報、あり、小、善、報、あり、と、死、木、は、善、報、あり、小、惡、報、あり、と、死、十、倍、と、  
 惡、き、報、あり、生、と、世、と、く、の、如、く、と、い、ふ、と、只、有、と、り、死、の、孝、子、本、二、郎  
 前、身、の、功、徳、と、り、と、才、三、郎、と、生、變、り、地、方、と、お、り、不、破、郡、の、目、代、と、い、ふ、と、  
 お、駒、退、く、活、駒、と、ぬ、る、是、宜、と、い、ふ、と、馬、は、畜、し、夫、萬、物、一、馬、之、馬、の、外、は、馬

禍福の故より定まらざる善い禍と退け善い福と迎へる。又何ぞ疑んば才化自殺  
 の。因縁を怨むは他くもた。とまこと又縁故あり。當初若月角六ハ因果塚の鬼は媚牧村  
 傳つてこそ怨む。是よりして塚の鬼牧村生を怨りてとて遂にその後と為る  
 か。その女婿才化が因果塚の祈子。一角と誓ひた。忽地は退糧を豹拾え  
 とまがぬ。因果塚の坎へ落し。入る。鬼の祟をた。才化ハ勇義の健  
 雄より。この時の。死に。只彼硯を愛せり。遂に宗小命残。損  
 ち。尾花ハ則芒る。柏の白木と怨。又柏芒寺の因果。か。い。と  
 数百年前死。又人の胎は宿り。おのく。生きたるの理は。伝説の  
 前後身俗ハ所習再来ハ必因あり。縁あり。生る。の類。苦思。親おの  
 つ。古人ハ暗合。とあり。怨。お。駒が。生。と。堂。前。生。女。犯。れ  
 戒を破て。死。の。その。堂。出。る。虫。蜻。亦。其。の

蜻蛉のあつて。警ハ件の塚の鬼午句坊谷折ホと今のお駒谷ホも同根分  
 り。と。更。因果。説。と。暗合。と。如。か。お。駒  
 亡骸を彼空へ返り埋ハ怨。と。得脱。と。永。障身。ある。と。は  
 不思議。三年。以来。合。師の。教。受。と。如。是。我。聞。静。は。月。裡。乃  
 月。と。今。生。後。生。と。照。と。這。個。乃。因。果。件。の。如。亦。復。約。て  
 と。紙。り。が。

第一	白木楮平が	前身ハ	美濃尾山柏芒寺開基女僧柏手
第二	口深めが	前身ハ	美濃前国司在原行平 <small>小右衛門</small>
第三	獵夫復市が	前身ハ	在原行平卿家臣夏柿某
第四	獵夫株藏が	前身ハ	在原行平卿家臣珠倉某
第五	口芥が	前身ハ	不破郡司鬼妻谷折

第六 主骨丈八が 前身

不破郡司

第七 小廝岐藏が 前身

柏芒寺沙弥支山

第八 岐藏が妻瀧水が 前身

柏芒寺沙弥林中

第九 白木屋阿駒が 前身

柏芒寺悪僧午句坊

第十 尾花才三郎が 前身

孝子木二郎

さぞこの十人の十思の實主なり。或は餓鬼畜生と云ふ。或は修羅人天に流轉せり。

さぞこの。汝は出く汝は返る。努慎や。と返覆し。叮嚀は説諭せ。尾花

親子岐孫親子ハ離がて。醒るがて。共は嗟嘆と感涙坐は禁あを。

當下清平ハ圓る。目然掲赤めく鼻うちらう。善知識の説法は。おのがころの

穢汚と洗は。ばドめく。二世の悪業。そまへ入ら。尾花や。乃

恩試おひらで。復せ。女兒お駒が。今ころ。殺さ。て。天の責。深松法師

岐孫が。小。親の仇入る。首然。孝養。不。侍。と

いひつ。坐。組合。坐。的。心。法。衣。の。袖。死。あ。世。善。哉。懺。悔。五。逆

十。思。と。消。滅。さ。岐。孫。が。和。殿。假。小。と。主。る。小。仇。り。そ

い。今。恩。試。ひ。と。怒。よ。と。守。は。え。あ。て。余。乞。マ

る。そ。と。苦。提。の。種。と。来。世。の。徑。管。肝。要。る。と。示。を。折。奥。の

と。下。の。活。駒。の。遠。く。走。り。出。い。と。死。出。法。の。声。と。彼。妙。と。聴。は。は。り。て。病

著。忽。地。お。こ。り。ぬ。と。い。声。と。現。回。陽。の。推。用。が。の。折。戸。口。守。乃。と。せ

ひ。ぬ。と。牧。村。長。通。は。呼。門。せ。右。近。大。夫。義。龍。ハ。後。者。夥。お。く。と。入。り。處

と。迎。る。才。三。郎。也。然。と。甲。夜。は。羽。栗。の。農。民。を。劫。き。山。賊。を

退。治。の。為。と。馬。然。出。し。似。ぬ。盜。賊。と。彼。此。と。擲。捕。ら。せ。思

民。を。喻。く。折。一。個。の。修。験。者。途。は。あ。り。と。馬。を。推。と。守。乃。と。民

ありやめりや。前圓司時頼藝の落胤法師よりて的心と云ふ。今夜蓮花才  
 三郎が宿所あり。直よのゆゑに對面する人必國は福ありと告げると言ふ  
 忽然と形は消くろくなり。少れ緋奇異うと云ふと据あり。うらと止ぶる  
 る。後曹づり紙ひれく。この門傍に馳走。緋の競つた。小竹の。現  
 の法師の智慧活影。むの行基弘法。と云ふ。劣ぶうとあふ。早  
 総角の比尺系。世頼藝朝臣より。肖る。彼の心やあふ。と云ふ。圓にて  
 的心。礼儀正しく。貧道則時が見る。この母の。頼藝の妻。この  
 懐胎。總の。尺。尺。農夫。謀。婦。後。貧道。産。母。人。を。守  
 方。加。之。頼。藝。陸。奥。卒。去。骨。骸。敏。の。思。義。害  
 又と志。加。之。頼。藝。陸。奥。卒。去。骨。骸。敏。の。思。義。害  
 迺。汝。と。云。ふ。と。此。度。師。の。賜。は。白。骨。の。院。袋。の。裡。に。携。て。と。云。ふ

守護る。武運。や。傾。て。子。孫。沈。落。の。戦。國。の。慣。ひ。是。報。の  
 及。び。道。三。情。う。と。十八。郡。の。彼。の。賜。なり。い。づ。か  
 舊。恩。我。仇。と。云。ふ。今。より。還。俗。志。の。富。田。の。城。と。進。と。云。ふ。と。叮。嚀。は  
 勸。心。の。紙。紙。う。ち。掉。く。時。が。子。孫。に。と。の。と。か。と。云。ふ。と。不。近。國。は。あり。と  
 仲。の。後。又。必。起。る。の。の。と。云。ふ。還。俗。の。の。の。本。意。は。あり。と。云。ふ。と。回。答。は。う。ら。ひ。く  
 九。と。云。ふ。と。義。龍。再。で。と。云。ふ。と。加。藍。と。建。立。と。當。郡。と。坊。料。は。進。む。と。云。ふ。と  
 づ。我。を。受。び。只。金。山。彦。の。神。社。頽。破。の。修。復。と。実。又。母。継。父。の。墳。墓。の。地。と。坊  
 賈。渚。平。が。舊。恩。我。免。と。云。ふ。と。義。龍。ま。と。云。ふ。と。感。佩。と。云。ふ。と。衆  
 こそ。許。容。し。猛。推。美。山。の。硯。を。取。る。と。云。ふ。と。義。龍。の。心。は。委。仕。と。云。ふ。と。主。後  
 帰。城。と。云。ふ。と。的。心。の。件。の。硯。と。か。駒。が。死。骸。と。尾。山。の。空。は。下。敷。と。云。ふ。





# 編述

## 曲亭主人稿本



總卷淨書

千形仲道騰寫

# 畫互

## 北高重宣筆



繡像剖劔

朝倉伊八郎刊

○近刻出像函字小説全本五卷

山青堂用版

義男の各氏ハ渡辺櫛の由來 馬琴著 此の類目ハ後ノ披あせりハ著ふべきにあらざる  
加衣沙衣御前七條法裕 成乃冬のお板とまきそのく 袈沙衣のあのみ世の  
節婦の終焉ハ鯉塚の縁起 人屋は後突まきとりのあも列りその類目終つてより  
此の類目ハ後ノ披あせりハ著ふべきにあらざる 袈沙衣のあのみ世の

この類目ハ後ノ披あせりハ著ふべきにあらざる 袈沙衣のあのみ世の

道二翁道話

六篇揃 六冊

算法指掌大成

一冊

鳩翁道話

十八冊

月令博物笈

十六冊

二十四孝繪抄

前後 二冊

鼎左秘録

一冊

陰騭文繪鈔

二冊

茶家醉古集

五冊

孝女操草

三冊

通俗武王軍談

二十冊

繪本楠公記

三篇揃 三十冊

通俗吳越軍談

十八冊

大坂書林

本町通心齋橋東八  
河内屋真七板

